

福山外務副大臣のアフガニスタン出張 【関連資料】

1. カルザイ大統領表敬概要
2. カルザイ大統領就任式要点

福山外務副大臣のカルザイ・アフガニスタン大統領表敬(概要)

平成21年11月18日
外務省

11月18日、アフガニスタンを訪問中の福山哲郎外務副大臣(総理特使)は、ハーミド・カルザイ・アフガニスタン大統領を表敬したところ、概要以下のとおり。

1. 冒頭、福山副大臣からカルザイ大統領に対し、鳩山総理からの親書を手渡すとともに、大統領就任への祝辞を述べた。これに対し大統領より、鳩山総理からは先日電話を頂き、日本からの50億ドルの支援表明に大変感謝すると申し上げたところである、今般日本政府を代表して福山副大臣に大統領就任式にご出席頂けることを大変嬉しく思うと述べた。
2. カルザイ大統領より、自分は今後、①治安の回復、②国の発展と開発の2点に主に取り組んでいきたいと述べ、カブール空港ターミナル整備の例を挙げつつ、日本の支援はこれらの目的に資するものであると述べた。その上で大統領より、先日、鳩山総理宛に日本の支援に感謝を表明する書簡を送ったところであり、その中で今後日本に水資源管理及び電力について協力頂きたいと書いた旨述べた。これに対し福山副大臣より、日本はアフガニスタンの治安の安定に期待しており、警察支援を含め、様々な協力を行っていききたい、水資源と電力に関しては、日本が表明した50億ドルの支援の中で何ができるか検討していきたい旨述べた。
3. カルザイ大統領より、日本はあらゆる分野で発展を重ねてきた経験があり、日本による支援はどんな分野のものであれ有難い旨述べた。これに対し福山副大臣より、日本による支援をアフガニスタンの安定と復興に活用して頂くためにも、治安の回復、ガバナンスの強化、汚職対策への取組を強くお願いしたい旨述べ、大統領は、もちろんである、それは我々の責任であると述べた。
4. 福山副大臣より、今後和解の問題をどのように進めていく考えかと質問したのに対し、カルザイ大統領より、アル・カーイダと関わりを持たないタリバーンも含め、可能な限り早くロヤ・ジルガを開催したい、和解の問題についてはサウジアラビアの関与とパキスタンの協力が必要である旨述べた。また、来週、東京で和解に関する会議が開催されるものと承知しており、アフガニスタンからも代表を派遣する予定である、これはアフガニスタンにおける和解のための準備にも寄与するものであると述べた。
5. 福山副大臣より、再統合に関して、日本としては元タリバーン兵に対する職業訓練等の実施の可能性を検討している、建設的な支援を行うためにアフガニスタン側の協力をお願いしたい旨述べた。これに対しカルザイ大統領より、もちろんである、日本はDDRやDIAGで多くの経験を有しており、その経験を活かした協力を行って頂きたい旨述べた。

(了)

就任式におけるカルザイ大統領の演説（骨子）

平成21年11月19日

中東第二課

1. アフガニスタンの多数の国民が選挙に参加したことは、アフガニスタンが政治的に成熟したことを示した。この偉大な国家的プロセスに犠牲を払った者に感謝するとともに、すべての候補者を賞賛する。この選挙はすべての民族的な壁を打ち破った。アブドゥッラー博士を含むすべての大統領候補者に、国家の結束と、誇り高く繁栄するアフガニスタンという重要な任務に参加するよう呼びかける。

2. この機会にアフガニスタンの将来につき話したい。

(1) 平和と和解

安全と平和は、闘争と暴力によっては得られない。家に帰り、平和理に生活し、憲法を受け入れるすべての同胞を歓迎し、必要な支援を行う。国際テロに直接関係していない同胞には故郷に帰るよう呼びかける。ロヤ・ジルガを開催し、国家の平和のためにあらゆる努力を払う。平和と国家の和解のためにサウジアラビア国王が払っている努力に感謝する。

(2) 治安

(イ) 国家を防衛し安全を提供するのはすべてのアフガン人の義務である。量的・質的に国軍及びその他の治安部隊を改善したい。今後3年間で、アフガニスタンは多くの不安定な地域での軍事活動を主導して実施したい。カブールと同様、他の県でも我々の治安部隊は治安を統制すべきであり、そうすれば国際的な部隊の役割は徐々に減少してアフガニスタンの部隊の支援と訓練に限定される。今後5年間で、国中の治安と安定にアフガニスタンの部隊が主導できることとなる決意である。

(ロ) 被疑者の拘束と訴追はアフガニスタン政府の責務であり、刑務所、拘置所及び司法制度を改善する。

(ハ) 民間人の犠牲は引き続きアフガニスタンの懸念である。NATO、ISAF等との議論の結果、犠牲者が減少したことは喜ばしく、そのような措置を強化したい。

(ニ) 今後2年の間に、すべての民間警備会社の活動を終わらせ、アフガニスタン部隊に引き継がれることを希望する。

(3) 良き統治

(イ) 良き統治の前提は、個人と社会の安全を確保することである。良き統治は良き行政府により実施され得るものであり、腐敗防止のために政府高官の収入源を特定するための法案を議会と協議して制定する。アフガニスタン政府は不訴追と法違反の文化を終わらせ、腐敗と権力を乱用する者に正義をもたらす。司法改革とともに、腐敗防止機関の権限や能力、資源を強化し、法制度の改革を行う。腐

敗に取り組むために、近々、カブールで会議を開催する。

(ロ) 違法な麻薬の栽培と売買はテロと腐敗に直接結びついており、政府は断固としてこれに闘う。

(ハ) 議会選挙時に郡レベルの選挙を実施する。また、行政府内の女性の権利を確保する。

(4) 経済開発

(イ) 経済発展のため、農業、畜産、灌漑、エネルギー、教育の強化に取り組み、高速道路の建設やインフラの改善に努力する。地方開発のため、国家連帯計画や類似の計画を支援する。再建のニーズに合わせて若者に職業訓練を実施する。

(ロ) 今後5年間の新たな事業計画を実施するため、国際社会との新たな協力の枠組みを構築したい。現在、国際的な資金の20%しか政府予算を通じて支出されていない。ドナー国には、これを40%に引き上げ、更に今後2年間で50%にまで上げることを求めたい。国際的支援の支出の透明性は、もう一つの重要な問題である。

(5) 地域協力

強力な地域協力は、国家の社会、経済及び文化的発展の主要な誘因である。アフガニスタンを中心アジア、南東アジア及び中東の架け橋にしたい。アフガニスタンは南北アジアでの物資とエネルギーの中継となり得る。

(6) 外交政策

(イ) 国連の指導力に感謝する。米国は治安、経済発展及び良き統治のための最大の貢献者であり、米国との関係強化にあらゆる必要な措置を執る。

(ロ) 日本による50億ドルの支援の表明には心から感謝する。

3. アフガニスタンと国際社会との協力と支援の新たな一章を開くため、近々、カブールにおいて国際会議を開催する。

(了)